

特定外来生物等専門家会合で特定外来生物に選定することが適当とされた外来生物の概要

分類：甲虫目かみきりむし科

種名	学名	原産地	評価理由
ツヤハダゴマダラカミキリ	<i>Anoplophora glabripennis</i>	中国、朝鮮半島北部	日本国内において、既に、アキニレ等の街路樹や植栽木への加害が確認されている。本種は樹体上部から食害するため (Haack et al. 2010)、落枝による人的被害を誘発しやすい。定着域では、通常の点検のみでは被害木の発見が遅れるなど樹木管理が困難となる。また、本種の寄主植物のうちリンゴ属、ナシ属及びバラ属等は、農産物として全国的に栽培され、食害等による農林水産業への被害のおそれがある。また、在来のゴマダラカミキリとの繁殖干渉の可能性が実験によって示されている。森林域に定着侵入した場合、在来カミキリムシ類との食樹の競合や、食害による樹木の枯損により植生や森林生態系への影響が懸念される。本種は、国際自然保護連合が発表した世界の侵略的外来種ワースト 100 に選ばれているなど、定着した場合の被害の大きさが世界的に知られている。
サビイロクワカミキリ	<i>Apriona swainsoni</i>	インド、ミャンマー、カンボジア、タイ、ベトナム、ラオス、中国、朝鮮半島等	日本国内において、既に街路樹や市街地等に植栽されているイヌエンジュ、エンジュへ加害し、枯損する事例が確認されている。街路樹等の植栽樹が加害されることで、景観への悪影響等の被害を引き起こす他、市街地など公共の場においては被害木の枯損や落枝等による二次的な人的被害が発生する危険性もある。本種は中華人民共和国ではエンジュの深刻な害虫として同国の国内森林植物検疫対象に指定されており、日本国内においても市街地の街路樹や公園だけでなく、森林域に侵入定着した場合、植生や森林生態系への悪影響が懸念される。